予算総額 33億2957万円の収支

ことしの市行政のあり方を決める３月定例市議会は、３月10日から21日までの12日間の会期で開かれ、予算総額33億2957万円（うち、一般会計26億9763万円）などを決めました。

ことしの重点目標は、生活基盤の整備におかれ、きびしい財政状態のなかから、■市庁舎の建設のために2億2232万円■道路の新設や改良のために1億496万円■都市計画をすすめるため 1,452万円■がけくずれの対策として 3,500万円■地方改善事業として４億9714万円（国の補助事業２億4215万円、県の補助事業２億1269万円、市の単独事業4230万円）■児童公園や遊園地をつくるために4,131万円 ■交通遺児や、児童手当に820万円■おとしよりの福祉のために4,859万円■三和小学校の校舎改築に5,600万円■ゴミし尿処理するために 3,370万円、また、水道事業では■岡豊地区に新しくつくるため1億154万円■野中地区を改善するため 2,451万円など積極的な予算がくまれました。

一般会計 26億9,763万円

昨年にくらべて１億 9,324万円、約８㌫ふえています。

歳出のうちで大きいものは人件費や生活扶助費で、あわせて10億１603万円、一般会計の予算のうち37㌫をしめています。このため建設事業にかける予算が少なくなってきており44年度の決算で約22㌫と、他市にくらべてかなり低いものとなっていました。しかし、ことしは物件費などの経費を節減し、建設事業を重点的にとりあげたため、約37㌫と大きくのびています。

このように義務的な経費は、年ごとに多くなるのにくらべて、市税など一般財源の伸びが少なくて、あいかわらず苦しい台所であるといえます。

昭和34年、市に合併したときの赤字1億1,355万円は、順調に解消につとめ、41年度でなくすことができました。

ところが、その翌年には、ふたたび 3,510万円の新しい赤字をだすことになってしまいました。しかし、この赤字も市民の協力をえて、47年度には、なくすことができそうです

このように市の歴史は、赤字解消を中心にしたものでしたが、市民の要求、要望は、年ごとにふえるばかりです。

地域の開発や庁舎の建設、台風1023号の災害復旧などのため多くの費用がかかり、赤字は解消しつつも、市債（借り入れ金）7億7,179万円、債務負担行為（他の団体が借り入れたものの損失や債務を市が補償したり、負担するものなど）10億6,739万円など、これから負担しなければならないもの多くあります。

ところで、県下の赤字団体は、45年度の決算で、中村市、春野町、大方町と南国市の４市町になっています。

《歳　入》

ことし市に入ってくる大きなものは国・県の支出金７億7,296万円(10㌫増）地方交付税7億200万円（10㌫増）市債5億2,350万円（64㌫増）市税4億7,394万円(11㌫増)があります。

ところで、市税などの市の自主財源（市がみずからの力で集められる金）は全体の25.6㌫と少なく、国・県の補助金、地方交付税・市債などの依存財源（国や県にたのんで、もらったり借りたりするもの）は、74.4㌫でとても多くなっています。財政面では３割自治もなかなかだといえます。

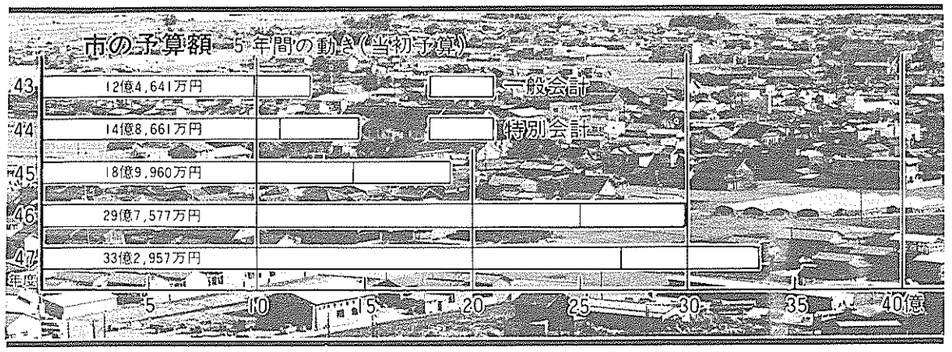
《歳　出》

市民サービスのため使う経費を、使用目的別にみてみますと　人件費や扶助費など消費的な経費が57.6㌫、建設事業など投資的な経費は42.4㌫となっています。

消費的な経費のうちでも人件費（市長・議員など特別職、消防団員やいろいろの委員、職員の給料など）が、5億8,426万円あり、市税の収入4億7,394万円を大きくうわまわっています。

費目別では、民生費が全体の約半分48.2㌫、13億203万円で、他を大きく引きはなしています。

これは、社会福祉費（地方改善事業・国民年金・老人、身体障害者、精神薄弱者の福祉など）6億4,132万円生活保護費4億1,075万円、児童福祉費（保育所・母子福祉）2億4,996万円となっています。ことしは苦しい財源のなかから、特に社会福祉や道路の整備に力をいれていることがわかります。



水道事業 1億9,029万円

水道会計は、45年度で赤字がなくなり、健全な運営をしています。

ことしは公営企業法の適用をうけて企業としての経済性を考えた、合理的な経営がはじまります。このため、市長部局の水道課を廃止して、水道事業管理者のもとに水道局がつくられます。職員も３人（事務１人工事の技術者２人）をふやして事業を充実します。

予算額、1億9,029万円のうち、１億5,055万円で建設、改良の事業を行ないます。

大篠地区のポンプ・配水管をふやすために…… 530万円。稲生地区の改良のために…… 500万円。南部の海岸地帯（十市、浜改田、前浜、下田村、下島浜、久枝）（47～50年度の４カ年間で、1億5,000万円）に、新しく水道をつくるために…1,420万円。岡豊地区（46～８年度の３カ年間で、1億3,680万円）に、ことし1億154万円。野中地区（46～８年度の３カ年間で8,049万円)の改良工事のために、ことし 2,451万円。

歳入は、企業債 5,350万円。国、県の補助金 4,405万円。地元の負担金（岡豊） 4,770万円などです。

国保(事業勘定) 4億2,124万円

前年度の予算額より、7,310万円（21㌫増）となっています。

これは歳出で医療費が32㌫ふえるものとみているためです。

その内訳は、医療費の値上げ分11㌫おとしよりの医療費の無料によるもの５㌫、平年の伸び率15㌫となっています。

このため、保険税が全体で３㌫あがることになりました。

歳出のおもなものは、健康な家庭を表彰するために……90万円。納税組合の補助金……225万円。療養の給付のために……3億8,001万円。療養費として、… 270万円。赤ちゃんが生まれたときのお祝い金に…… 180万円。死亡したときのお見舞に…… 120万円。国保の連合会への負付金として…… 1,180万円となっています。職員などの人件費は 1,098万円で、増員の予定はありません。

国保(直診勘定) 78万円

巡回診療車で、医者のいない黒滝、中の川地区の市民を診さつするための費用です。

歳入は、事業勘定からの繰り入れと診療の収入。

歳出は、専任の医師や職員の給料など……55万円。診療のための薬など……19万円です。

特殊道路の整備 1,422万円

歳出のおもなものは、高知刑務所の移転にともなって、農道蒲原線の用地を買うために…… 134万円。都築紡績の誘致にともなって、土居井水路を改修するために……40万円。市道奈路・中谷線を改良するための測量の委託料として…… 125万円。借り入れ金の利子を払うために……150万円、前年度の赤字をおぎなうために……973 万円。歳入は、雑収入1,422万円となっています。

決った おもな議案

■監査委員などの報酬あがる
日額でそれぞれ次のとおりになりました。監査委員（一般）二千円（千五百円）・監査委員（議会の選出）千八百円（千二百円）農業委員会長、千円（千五百円）同会長代理・部会長千九百円（千二百円）同委員千八百円（千二百円）部落の連絡員の予当一世帯につき百三十円（百二十円）。

■消防団長は年額六万円に
団長六万円（四万五千円）副団長四万円（三万円）分団長、万し千円（二万五千円）副分団長、万五千円（二万千円）部長、万二千円（一万円）班長、万一千円（九千円）団員、万円（八千円）
また、会などに出席したときは役員会のとき千二百円（五百円）火災のとき千円（二百円）警戒のとき千円以内（六百円以内）訓練のとき千円以内（六百円以内）機械の整備のとき五千円（二千円）になりました。

■交通遺児に、年額二万四千円
くわしくは八ページをごらんください。

■市の児童手当なくなる
ことし一月から、国の児童手当がもらえることになりましたので市独自のものはやめました。
くわしくは、八ページを、ごらんください。

■おとしよりの医療費が無料に

■国保の均等割あがる
被保険者の均等割が、一人につき二千八百円（二千五百円）にあがりました。

■廃薬物の処理などの条例できる
廃薬物をきれいに処理し、生活の環境をよくするため、市のやるべきこと、市民の心がけてほしいことを決めました。し尿の手数料は、一八リットルごとに二十円、犬・ねこの死体を始末する手数料は、一体につき百円で、今まで通りです。

■工場や事業所への奨励
工場や事業所をつくるときにはある基準以上のものには奨励金がもらえたり、固定資産税がかからなかったりします。その基準が少し広くなりました。

■峰寺の参道が市道に
四国八十八カ所の一つである峰寺に参拝する道が市道になりました。バスの乗り入れもできます。

■水道指定店の手数料五千円に
水道工事の指定店にはる手数料が、新規五千円（三千円）継続三千円（二千円）、技術者の試験手数料二千円（一千円）などがかわりました。また、工事の検査手数料が、設計金額の三割から五割にあがりました。